

# 2025年に向けた 医療機関毎の具体的な対応方針について

## 2025年に担う役割と機能別病床数（具体的な対応方針）の変更

昨年8月に開催した印旛地域保健医療連携・地域医療構想調整会議以降、1医療機関から内容変更の報告があり、一覧表を更新しましたので、皆様と共有し、2025年時点の地域の状況について確認をお願いします。

内容変更：1 医療機関

下線部：昨年度の内容から変更のあった箇所

## 具体的な対応方針の変更時の報告のお願い

「地域医療構想の進め方について」（平成30年2月7日医政地発0207第1号）に基づき、毎年度、個別の医療機関における2025年における具体的な対応方針について協議する必要があります。

このため、既に策定いただいている各医療機関毎の具体的な対応方針の内容について、変更が生じた場合には県に報告いただき、一覧の内容を更新していくこととしています。

**具体的な対応方針が未策定の場合、策定済みの具体的な対応方針の変更、病床機能の変更を伴う施設整備が生じた場合には、県への報告について御協力をお願いします。**

具体的な対応方針の変更等があった場合は、令和元年8月20日付け健福第758号「2025年における医療機関ごとの具体的な対応方針の今後の協議の進め方及び手続き等について（依頼）」に基づき必要な手続き等をお願いします。

※千葉県ホームページから調査票(エクセル)がダウンロードできます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kenfuku/keikaku/kenkoufukushi/chiikiiryokousou.html>

ホーム > くらし・福祉・健康 > 健康・医療 > 保健医療政策 > 地域保健医療連携・地域医療構想調整会議

## 非稼働病棟の今後の見通しと解消状況

- 本圏域において、2021年7月1日時点で非稼働病棟のある医療機関は3施設であった。（一部、非稼働病床のある病棟を除く）
- 全数調査を実施した2019年7月1日時点から、非稼働を解消した医療機関は1施設であった。（2020年は抽出調査）
- 非稼働の状況に変動等のあった医療機関に対する御意見を伺います。

### 非稼働病棟（過去1年間、一度も入院患者を収容しなかった病床のみで構成される病棟）

- 令和3年8月20日付け医第1256号「非稼働病床の調査について（依頼）」に基づき掲載
- 「非稼働病棟の今後の見通し等」の一覧表の状況説明
  - 継：一昨年の報告から引き続き稼働していないと回答があった医療機関
  - 新：今年度の報告で非稼働病棟があると新たに回答があった医療機関
  - 未：今年度の状況について回答がない医療機関
- 「非稼働病棟の解消状況等」の一覧表の状況説明
  - 全部：今年度の報告で非稼働病床をすべて解消したと回答があった医療機関
  - 一部：一昨年度の報告で非稼働病棟があると回答があった医療機関のうち、今年度の報告で非稼働病棟が確認できなかった医療機関

2025年に担う役割と機能別病床

【印旛保健医療圏】

No.	医療機関名	2025年に担う役割（予定を含む）										2025年における機能別病床数						機能変更の理由等	補助金活用予定				
		がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	救急	災害	周産期	小児	在宅	その他	補足	高度急性期	急性期	回復期	慢性期			計	休棟等	移行予定	備考
【病院】																							
1	独立行政法人国立病院機構下志津病院	○	○		○					○	○	○	筋ジストロフィーや重度心身障害者（児）		150	50	240	440				老化に伴う病棟建替えを予定しており、地域包括ケア病棟の休棟分を再稼働し地域医療連携を強化したい	○
2	成田赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			107	550			657				【変更前】高度急性期109 救命救急センターの病室を一部統合・改修するとともに、設備等を充実させることで、高機能化を図る。（2021年報告）	○
3	公益財団法人日産厚生会佐倉厚生園病院				○						○	○	回復期機能を強化していく。			45	136	181					○
4	医療法人鳳生会成田病院	○	○	○	○	○				○	○				120	60	240	420					
5	医療法人社団透光会大栄病院				○												120	120					
6	医療法人社団愛信会佐倉中央病院									○					96			96					
7	医療法人社団樹徳会佐倉整形外科病院					○									33			33					
8	東邦大学医療センター佐倉病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○				405				405				【変更前】高度急性期447 大学病院として、より高度な医療を提供し地域医療の中核を担うことを目的として、病床の削減を行う（2021年報告）。	
9	聖隷佐倉市民病院	○		○	○					○	○	○	慢性腎臓病、整形外科、摂食嚥下障害	8	391			399				許可病床を1床減少し、地域包括ケア病棟を増床（2020年）	
10	医療法人それいゆ会四街道さくら病院									○	○		現在の療養病棟を継続したいと考えている				95	95				一般病床を療養病床に転換し、4床廃止済（2018年）	
11	医療法人徳洲会大日徳洲会病院																	0				病院建物、設備機器の老朽化、医療環境の提供面、設備構造面において医療機関としての存続が困難なため、同一医療圏にある成田富里徳洲会病院に122床移転し、同病院は閉院した（2020年）	
12	医療法人社団威風会栗山中央病院					○									92			92					
13	医療法人沖繩徳洲会四街道徳洲会病院	○	○			○	○								220			220					○
14	医療法人社団誠和会長谷川病院	○	○	○	○						○					51	57	108					○
15	医療法人みつや会新八街総合病院	○	○	○	○	○				○	○				60	40	91	191					
16	医療法人甲辰会海保病院					○									37			37					
17	医療法人平成博愛会印西総合病院	○	○	○	○					○	○					120	60	180	42			方針策定に伴い一覧表に追加（2020年）	
18	日本医科大学千葉北総病院	○	○	○	○	○	○	○	○					574				574				26床廃止済（2018年）	
19	医療法人社団白翔会千葉白井病院		○	○	○					○	○				45	55		100				開設者変更（2018年）	
20	医療法人社団聖仁会白井聖仁会病院	○		○	○					○	○				69		124	193				方針策定に伴い一覧表に追加（2019年）	
21	医療法人社団東光会北総白井病院					○									53		105	158					
22	医療法人社団樹々会日吉台病院	○	○	○							○				66			66				7床廃止済（2017年）	
23	医療法人社団千葉光徳会中沢病院（新）千葉しずい病院										○		慢性期医療、回復期医療、地域包括ケア医療			41	270	311				新築移転に伴い地域性やニーズを考慮し、41床分回復期リハビリテーション病棟へ変更予定。新築移転に伴い設備の充実、人員増員等で許可病床をフル稼働する（2019年）。	

No.	医療機関名	2025年に担う役割（予定を含む）											2025年における機能別病床数						機能変更の理由等	補助金活用予定							
		がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	救急	災害	周産期	小児	在宅	その他	補足	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計			休棟等	移行予定	備考				
24	医療法人徳洲会成田富里徳洲会病院	○	○	○	○	○					○	○		10	296	47	54	407			高度急性期8床→10床 急性期235床→296床 回復期42床→47床 慢性期0床→54床	同一法人内の大日徳洲会病院から病床移転予定。移転分の整備は令和2年6月予定。6月～8月供用開始予定。救急を中心とした急性期患者の受入要請が増加しており今後も引き続き救急患者の受入に必需していくため高度急性期・急性期病床の増床が必要。 ※令和2年6月供用開始している。					
25	成田リハビリテーション病院		○								○	○	脳疾患、怪我、骨折、関節置換術後など急性期病院等からの転院先病院（回復期リハビリテーション病院）			100		100									
26	医療法人社団育誠會北総栄病院										○				64				64								
27	社会福祉法人1-カリ優都会南ヶ丘病院											○	脳神経外科					51	51			「2025年における医療機関ごとの具体的対応方針に関する調査票」「設問2」において、当院は2025年までに100床増床希望で記入いたしました。千葉県健康福祉部健康福祉政策課担当者様より、今回の調査は、基本的に配分を受けている病床数の範囲内での回答を想定している。今後の増床検討に関しては、その旨を備考として記載するような形で対応させていただきたい。とのメール連絡があり、今後の増床検討について備考欄にて記入いたします。 当院は、2025年までに100床増床致したい。理由は次の通りです。 ①当院の位置するユーカリが丘エリアは印旛医療圏の最西部であり、基準病床数に対して既存病床数が524床不足している東葛南部医療圏に隣接していることから、当院が増床することにより、印旛医療圏のみならず、東葛南部医療圏にお住いの皆様にご貢献できると確信しております。 ②当院の位置する印旛医療圏は平成37年の必要病床数に対して回復期機能の病床数が1,289床不足(28年度病床機能報告に基づく)、かつ、回復期機能圏域内完結率が63.5%で36.5%が周辺圏域に流出しており、当院が回復期病床を増床することにより、印旛医療圏にお住いの患者様は、自宅のそばで治療することが可能となり地域医療に大いに貢献できると確信しております。 ③現在、当院は一般病床の重度意識障害者施設等の入院基本料を届け出ておりますが、今後、回復期病床、慢性期病床及び終末医療を行うことにより、地域包括ケアシステムとして、隣接地にある急性期医療の東邦大学医療センター佐倉病院をはじめとする地域医療連携が、さらに充実すると共に地域高齢者施設を含めた地域医療・福祉・介護にご貢献できると確信しております。					
28	国際医療福祉大学成田病院	○	○	○	○	○	○	○	○					600				600			2020年開院						



非稼働病棟（2021年7月1日時点）の今後の見通し等

印旛保健医療圏

No.	状況	医療機関名	非稼働病棟数	病棟の病床数	病床種別	今後の見込み	(対応方針未定の項目については空欄)				再稼働するための課題等						
							対応予定時期	病床機能	入院料	診療科	人員不足			患者減少	施設老朽化	その他	備考
											医師	看護職員	その他				
【病院】																	
1	継	聖隷佐倉市民病院	1	22	一般	未定	未定	急性期					○	○			
【診療所】																	
2	継	医療法人社団明生会東葉クリニック・エアポート		19	一般	再稼働	未定	急性期	有床診療所入院基本料1	人工透析外科			○		○		
3	新	医療法人社団誠仁会みはま佐倉クリニック		1	一般	再稼働	2021 年	急性期	有床診療所入院基本料1	泌尿器科				○			

注1) 「状況」欄の記載は以下のとおりとする。

- 継 … 一昨年度の報告から引き続き稼働していないと回答があった医療機関
- 新 … 今年度の報告で非稼働病棟があると新たに回答があった医療機関
- 未 … 今年度の状況について回答がない医療機関（※ 記載内容は一昨年度の報告内容を参考として記載）

注2) 一昨年度の調査時点において非稼働病棟として報告された医療機関のうち、当該病棟の全部又は一部を再稼働等した医療機関については別掲する。

## 非稼働病棟の解消状況等

一昨年度調査時に非稼働病棟があった医療機関のうち、今年度の調査までに非稼働を解消したものを本表に別掲しています。  
 なお、病棟の一部再稼働したものについても、病棟単位での非稼働は解消していることから併せて掲載しています。

### 印旛保健医療圏

No.	状況	医療機関名	非稼働病棟数	病棟の病床数	病床種別	今後の見込み	(対応方針未定の項目については空欄)				再稼働するための課題等						
							対応予定時期	病床機能	入院料	診療科	人員不足			患者減少	施設老朽化	その他	備考
											医師	看護職員	その他				
【診療所】																	
1	全部	医療法人社団三樹会ウイング土屋レディースクリニック (旧いしいクリニック)		9	一般	再稼働	2021年5月	急性期									休棟中のいしいクリニックを分院として開設し、周産期医療を再開

注1) 「状況」欄の記載は以下のとおりとする。

- 全部 … 今年度の報告で非稼働病床をすべて解消したと回答があった医療機関
- 一部 … 一昨年度の報告で非稼働病棟があると回答があった医療機関のうち、今年度の報告で非稼働病棟が確認できなかった医療機関

注2) 本表に別掲された医療機関については、病棟単位での非稼働が解消していることから、次回以降の会議資料からは削除する。

## 届出による病床設置の診療所計画

医療圏	印旛
-----	----

No.	診療所名	予定地
1	(仮称)北総整形外科	佐倉市

### 【協議いただく内容】

- ・ 新規の有床診療所を開設するにあたり、新たな病床の整備計画の提出がありました。
- ・ 有床診療所において新たに病床を整備する場合には、県の許可を受ける必要がありますが、一定の要件に該当する場合には、届出で設置できる場合があります。

### 届出により診療所に病床設置が認められる要件の概要

都道府県知事が、医療審議会の意見を聴いて、地域包括ケアシステムの構築のための機能を有し、必要な診療所として認めるもの

※ 詳細については、別添「有床診療所の病床設置に関する特例」を参照願います。

- ・ 千葉県では、整備しようとしている病床が当該地域にとって必要な機能を担うものであるかどうかを地域医療構想調整会議において協議いただき、その結果も参考にしながら、千葉県医療審議会の意見を聴いた上で、上記要件に該当するものか否かを判断することとしています。
- ・ 今後の診療機能として、「急変時の入院患者の受け入れ機能」、「患者からの電話等による問い合わせに対し、常時対応できる機能」、「他の急性期医療を担う病院の一般病棟からの受入れを行う機能」及び「全身麻酔、脊椎麻酔、硬膜外又は伝達麻酔を実施する機能」を担うと聞いています。
- ・ ついては、添付資料を御確認の上、当該整備計画について、前述の要件に該当し、印旛保健医療圏における地域包括ケアシステム構築のために必要なものであるかどうかについて、御意見をいただこうとするものです。

## 有床診療所の病床設置に関する特例

基準病床数制度に基づく病床配分とは別に、一定の機能を持つ診療所については届出により病床設置が可能であり、その一定の機能とは以下の①、②のとおり医療法施行規則に定められている。

- ① 都道府県知事が、都道府県医療審議会の意見を聴いて、医療法第 30 条の 7 第 2 項第 2 号に掲げる医療の提供の推進のために必要な診療所その他の地域包括ケアシステムの構築のために以下の機能を有し、必要な診療所として認めるもの。

ア 在宅療養支援診療所の機能（訪問診療の実施）

イ 急変時の入院患者の受け入れ機能（年間 6 件以上）

ウ 患者からの電話等による問い合わせに対し、常時対応できる機能

エ 他の急性期医療を担う病院の一般病棟からの受入れを行う機能

（入院患者の 1 割以上）

オ 当該診療所内において看取りを行う機能

カ 全身麻酔、脊椎麻酔、硬膜外麻酔又は伝達麻酔（手術を実施した場合に限る。）

を実施する（分娩において実施する場合を除く。）機能（年間 30 件以上）

キ 病院からの早期退院患者の在宅・介護施設への受渡機能

- ② 都道府県知事が、都道府県医療審議会の意見を聴いて、へき地の医療、小児医療、周産期医療、救急医療その他の地域において良質かつ適切な医療が提供されるために必要な診療所として認めるもの。

- ③ ①又は②の診療所については、一般病床に加え、療養病床の場合であっても、届出による設置又は増床を可能とする。

## 病院・有床診療所に係る整備計画書（具体的対応方針）

## 1 基本情報

法人名	
医療機関名	仮称・北総整形外科 <sup>注</sup> （現・江畑整形外科）
所在地	千葉県佐倉市大崎台 4-3-1

※ 移転の場合、所在地欄には現在地と移転先を二段書きにしてください。

注：江畑整形外科から北総整形外科への名称変更及び法人化を検討中

## 2 整備内容等（該当項目に☑）

整備内容	<input type="checkbox"/> 新築(建替含む)	<input type="checkbox"/> 増築	<input type="checkbox"/> 改築	<input checked="" type="checkbox"/> 転換(内部改修等)
財政支援	<input type="checkbox"/> 特別交付税措置	<input type="checkbox"/> 特別償却制度	<input type="checkbox"/> 県補助金	

※ 財政支援については、提出時点で申請予定の内容を記載してください。

## 3 今後担う役割（該当項目に○）

	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	救急	災害	周産期	小児	在宅	その他
整備前											
整備後											○
その他の内訳及び補足等											

## 4 整備後の診療科

診療科名	整備前	整形外科、リハビリテーション科
	整備後	整形外科、リハビリテーション科

## 5 病床機能及び入院料

	整備前	整備後	届出予定の入院料
4 機能 合計	床	19 床	
高度急性期	床	床	
急性期	床	床	
回復期	床	19 床	有床診療所入院基本料 2（予定）
慢性期	床	床	
人間ドック等	床	床	
休棟等	床	床	

6 病床機能を変更する理由等（現在と整備後の機能別病床数を変更する場合のみ）

リハビリテーションには、治療直後の「急性期リハビリテーション」、急性期後の「回復期リハビリテーション」、自宅など退院後に行う「維持期リハビリテーション」があります。そのなかでも、「回復期リハビリテーション」は、最も効果的に身体機能の回復や日常生活に必要な動作の改善が見込めると考えられており、適切な回復期リハビリテーション訓練が行える、十分な環境を整えることが重要です。

印旛区域における2025年(令和7年)の医療機能別病床では、回復期病床は967床の不足となっています。

「北総整形外科」は、印旛区域において不足している回復期病床を補い、近隣の急性期病院と円滑に連携しながら、回復期リハビリテーションを必要とする患者様に役立つ医療の提供を目指しています。

7 地域の医療機関との連携やネットワーク化に対する考え

佐倉市は聖隷佐倉市民病院、東邦大学医療センター佐倉病院など、急性期病床が充実している一方、回復期病床は印旛区域のなかでも特に不足している地域の一つです。

「北総整形外科」の勤務予定医師は、印旛区域における診療経験が長く、平素から聖隷佐倉市民病院、東邦大学医療センター佐倉病院、独立行政法人国立病院機構下志津病院など近隣の病院の医師と、患者様の紹介などを通して交流があり、これら近隣の急性期病院とは、信頼に基づいた、患者様の円滑な紹介、受け入れが可能であると考えております。

8 整備スケジュール

供用開始予定	令和5年	4月予定
その他補足	特になし	

## 仮称「北総整形外科」事業計画の概要

江畑整形外科

院長 江畑龍樹

### 1. 回復期リハビリテーションの重要性について

病気や外傷など、さまざまな疾患の急性期治療を受けた後、運動機能を回復し、社会復帰のために行う訓練を総称して「リハビリテーション」と言います。例えば、足の骨折をした場合、手術をすればいきなり歩けたり、以前のような生活を送れるわけではありません。歩行訓練をはじめ、日常生活におけるあらゆる日常生活動作（ADL）を回復する、「リハビリテーション」を行う必要があるのです。

またリハビリテーションには、治療直後の「急性期リハビリテーション」、急性期後の「回復期リハビリテーション」、自宅など退院後に行う「維持期リハビリテーション」があります。そのなかでも、「回復期リハビリテーション」は、最も効果的に身体機能の回復や日常生活に必要な動作の改善が見込めると考えられており、集中的にリハビリテーションを行うことで、その後の安定した日常生活を維持につながります。

回復期に行うリハビリテーションの方法により、回復の度合いは大きく左右されるため、適切な回復期リハビリテーション訓練が行える、十分な環境を整えることが重要です。

### 2. 地域医療の現状

印旛区域における2025年(令和7年)の必要病床数は、令和2年度病床機能報告と比べて752床の過剰となっていますが、医療機能別病床では、回復期病床は967床の不足となっています(資料1)。

また、令和2年度病床機能報告では、佐倉市内病院の病床数は、合計1,154床のところ回復期病床は45床で、全病床に占める回復期病床の割合は3.90%でした。印旛区域の全病床に占める回復期病床の割合は10.56%(合計6,231床のうち回復期病床は658床)であり、佐倉市は印旛区域のなかでも特に回復期病床が不足している地域の一つと考えられます(資料2)。

### 3. 他の医療機関との連携状況

「北総整形外科」の近隣医療機関として、聖隷佐倉市民病院(佐倉市)、東邦大学医療センター佐倉病院(佐倉市)、独立行政法人国立病院機構下志津病院(四街道市)の3病院が立地しています。

令和2年度病床機能報告によると、このうち佐倉市内の聖隷佐倉市民病院は346床、東邦大学医療センター佐倉病院は447床を有していますが、すべてが高度急性期または急性期病床であり、両病院とも回復期病床を有していません。

令和元年度における両病院の整形外科手術件数は、聖隷佐倉市民病院が脊椎外科と関節外科手術を中心に1,269件、東邦大学医療センター佐倉病院が関節外科を中心に602件で、非常に多数の手術を実施しており、急性期病院として良く機能していることがうかがえます。

一方、多数の手術を行う急性期の病院では、次の手術のための病床を空けるため、手術後に十分なリハビリテーションが行えないまま退院せざるを得なかったり、また逆に、病床が空くまで手術が出来ずに待機せざるを得ないという問題が生じることがあります。

このような観点からも、急性期の治療を終えた患者様の、回復期リハビリテーションを担える施設の存在は重要であり、特に、上記のような場合には、急性期病院から回復期病床を持つ施設へ、患者様を円滑に紹介、転院できるようにすることが必要です。

「北総整形外科」の勤務予定医師は、印旛区域における診療経験が長く、平素から上記病院等の医師と、患者様の紹介などを通して交流があり、また同じ大学の整形外科教室出身で、個人的な知人である場合なども多く、「北総整形外科」と近隣の急性期病院とは、信頼に基づいた、患者様の円滑な紹介、受け入れが可能であると考えております。

### 4. 「北総整形外科」の勤務予定医師

「北総整形外科」管理者の江畑龍樹医師(現江畑整形外科管理者)は、日本整形外科学会専門医であると同時に、日本リハビリテーション医学会の専門医、指導医です。また、板寺英一医師も日本リハビリテーション医学会専門医で、現在は成田赤十字病院リハビリテーション科部長、岡本聖司医師は現在成田赤十字病院リハビリテーション科副部長です。

その他の勤務予定医師も、全員が整形外科専門医であり、リハビリテーション医療に関する豊富な診療経験を有しています。

「北総整形外科」では、リハビリテーション医療に経験豊富な医師、看護師、理学療法士、作業療法士などを多数配置することにより、専門性の高い回復期リハビリテーション医療を行える診療態勢を構築したいと考えています。

## 5. まとめ

社会の高齢化に伴い、脳血管疾患、関節や脊椎の変性疾患、骨粗鬆症を原因とする大腿骨頸部骨折や腰椎圧迫骨折などの疾患は増加傾向にあり、リハビリテーションに対する需要は年々高まっています。

リハビリテーション治療は、急性期の病態安定後、速やかに回復期リハビリテーションへ移行し、回復期リハビリテーション終了後には、円滑に維持期の医療に移行するなど、一貫した流れで行うことが重要であり、各時期に適したリハビリテーションを行うことによって、はじめて十分な治療効果が得られます。

「北総整形外科」は、印旛区域において不足している回復期病床を補い、近隣の急性期病院と円滑に連携しながら、回復期リハビリテーションを必要とする患者様に役立つ医療の提供を目指しています。

「北総整形外科」の事業理念をご理解頂き、何卒よろしく、ご協議いただけますようお願い申し上げます。

資料1 2025年(令和7年)における必要病床数との比較(印旛区域)

	必要病床数 (R7年)	機能報告 (R2.7.1)	差し引き	
高度急性期	594	1,394	800	過剰
急性期	1,947	2,481	534	過剰
回復期	1,625	658	▲967	不足
慢性期	1,382	1,698	316	過剰
休棟等	-	69	-	-
計	5,548	6,300	752	過剰

資料2 印旛区域および佐倉市内病院における医療機能別病床の状況

(令和2年度病床機能報告による)

	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	合計
佐倉厚生園病院			45	136	181
佐倉中央病院		96			96
佐倉整形外科病院		33			33
東邦大学医療センター 佐倉病院	447				447
聖隷佐倉市民病院		346			346
南ヶ丘病院				51	51
佐倉市合計	447	475	45 (3.90%)	187	1,154
印旛区域合計	1,394	2,481	658 (10.56%)	1,698	6,231